

Glocal Tenri



3

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.25 No.3 March 2024

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

・巻頭言

宗教は信仰するもの？実践するもの？

／井上 昭洋 1

・天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」 (10)

本連載における「翻訳」について ⑨

／加藤 匡人 2

・台湾の社会と文化—天理教伝道史と災 害民族誌 (18)

戦時体制と敗戦

／山西 弘朗 3

・社会福祉からみる現代社会—天理教の 社会福祉活動に向けて— (13)

子育て支援における天理教の社会福祉
活動 (1)

／深谷 弘和 4

・コロンビアへの扉—ラテンアメリカの 価値観と教えの伝播— (32)

7. コロンビアの非日常 1 その 4
カーニバルと天理教祭典

／清水 直太郎 5

・ニューヨーク通信 (19)

アメリカ伝道庁創立 90 周年

／福井 陽一 6

・おやさと研究所ニュース 7

第 363 回研究報告会／2023 年度伝
道研究会／2023 年度公開教学講座の
ご案内／2024 年度公開教学講座の
ご案内／2023 年度おやさと研究所 特
別講座「教学と現代」

巻頭言

宗教は信仰するもの？実践するもの？

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

私はハワイ人とキリスト教の関係やハ
ワイ人の主権運動などについて研究してきた。
ハワイでは、他の太平洋の島々と同様、19
世紀のキリスト教化によって伝統宗教が社
会の周辺に追いやられてしまった。伝統的
な宗教文化の一部が習慣として残っていた
り、カフナと呼ばれる宗教職能者(祭司・
民間治療師)が活動していたりするが、ハ
ワイ人の多くは敬虔なキリスト教徒である
と言って良い。しかし、1980 年代後半以降、
言語を含む伝統文化の復興(ハワイアン・
ルネサンス)が進み、多くの社会的文脈に
おいて伝統宗教およびその価値観が顕在化
してくると、先住民の主権を取り戻そうと
するハワイ人活動家の中には、伝統宗教に
回帰する者も出てきた。

学位論文のための調査をしていた時に目
にした地元紙の記事がある。それはハワイ人
の主権運動家へのインタビュー記事で、彼
女に運動の意義と今後の展開を問うもので
あったが、その最後に主権運動とキリスト教
の関係についての質問がなされていた。カト
リックの家庭に生まれ、カトリックの学校に
通った彼女は、両親の離婚をきっかけに教会
を離れた後、長年にわたり「チベット仏教の
実践者(a practicing Tibetan Buddhist)」であ
った。しかし、ヘイアウ(古代寺院)が発見さ
れた溪谷で高速道路建設の反対運動をして
いた時に伝統宗教(the traditional practices)
を学び始め、今では「伝統宗教の実践者(a
traditional practitioner)」であるという。ハ
ワイ人の伝統的な価値観を前面に押し出す主
権運動において、キリスト教徒でいること
には困難が伴う。伝統宗教の実践者であるほう
が、その価値観を基盤に置く主権運動を行う
際に葛藤は生じないだろう。彼女の改宗の物
語にそのようなことを指摘することもでき
るが、私とそのインタビュー記事を読んでい
て気になった点は別のところにあった。

日本人が自身の宗教について語る時、「私

は〇〇教を信仰(believe)している」と述ベ
ることが多い。もしくは「私は〇〇教の信者・
信徒(believer; follower)です」または「私
は〇〇教徒(Christian; Buddhist)です」と述
べるだろうか。キリスト教であれ、仏教であ
れ、民俗宗教であれ、宗教は「信仰するもの」
である。神仏の存在を信じ、その教えを信じ
るといように、頭の中で(日本的に言えば、
心の中で)信じるものが宗教であると私たち
は考えているのではないか。

一方、伝統宗教に改宗したハワイ人活動
家は、インタビューで自身の宗教について
説明する際に「実践する(practice)」とい
う動詞から派生する単語を用いている。彼
女の宗教的アイデンティティは信仰者(bel
iever)ではなく実践者(practitioner)なので
ある。辞書を調べると仏教にも practice と
いう動詞は使われるようだが、キリスト教
には使われないようだ。英語において、伝
統宗教は儀礼行為を想起させる「実践」と
いう言葉との親和性が高く、キリスト教は
「信仰(belief; faith)」という言葉と親和性
が高いだろう。それには幾つかの理由が考
えられるが、その宗教が一般信者に親しく
読まれる聖典を有しているか否かも関係し
てくるのかもしれない。

宗教を巡る「信仰」と「実践」という言
葉を考える時、天理教の場合は果たしてどう
なるだろう。自らの宗教的アイデンティティ
を表明する時、私たちは「私は天理教の信者・
ようぼくである」と述べるのが常であって、
自らを「天理教の実践者」と呼ぶことはほと
んどない。しかし、単なる儀礼や儀式の実
践を超えて「教えに基づく生き方」にまで「実践」
の意味を押し広げて、自らを天理教の実践者
であると宣言してみれば、自身の信仰がより
明確に見えてくるのではないだろうか。別席
にも説かれるように、教えを「実地に身に行
う」ことの重要性は、お互いに重々承知して
いるのだから。